

市民的不服従と現代

市民的不服従と現代 I 「共生」——問われる日本社会

日時：2015年1月16日 17時30分～21時

場所：和光大学ポブリホール鶴川 地下2階ホール

賛同：社会福祉法人 青丘社

川崎市教育委員会連携事業

〈第一部〉

日本に生きる原点・私の40年

呉徳洙（映画監督）：スピーチ

映画『指紋押捺拒否』：特別編集版上映（15分）

ロバート・リケット（和光大学）講演：「日本に生きる原点・私の40年」

〈第二部〉

パネルディスカッション「問われつづける「共生」——ヘイトスピーチの時代に」

ロバート・リケット（和光大学）

梁澄子（日本軍「慰安婦」問題解決全国行動）

崔真碩（広島大学）

道場親信（司会・和光大学）

参加者数：230名

市民的不服従と現代 II 三里塚の今を生きる

日時：2015年2月8日 13時45分～17時30分

場所：和光大学ポブリホール鶴川 3階多目的室

川崎市教育委員会連携事業

〈第一部〉

映画『三里塚に生きる』上映（140分）

〈第二部〉

ディスカッション

代島治彦（映画監督）

ロバート・リケット（和光大学）

道場親信（司会・和光大学）

参加者数：120名

以下に掲載する記録は、2014年度に和光大学有志・和光大学総合文化研究所主催で行なわれた連続シンポジウム「市民的不服従と現代」ⅠとⅡにおける講演とシンポジウム、ディスカッションをまとめたものである。

同企画は、2014年度で退職される現代社会学科ロバート・リケットさんの歩んだ軌跡を手がかりに、20世紀の人類の経験、そして第二次世界大戦後の日本社会の経験を「市民的不服従」というキーワードを軸としてふりかえるものである。それは単なる過去の掘り起こしにとどまらず、「特定秘密保護法」や「集団的自衛権」を前提とした「安保法制」が国会の多数派によって決定され、排外主義的なナショナリズムとヘイトスピーチが力を持ってきている現在の日本社会を考える作業ともなった。

リケットさんの最終講義に代わる「自主最終講義」の性格を持つ、本企画の立案と準備の作業は8月末から始まり、森下直紀(経済経営学部准教授)を代表に実務力溢れるスタッフによって進められてきた。私がここでとりまとめの文章を書き、2回のシンポの「あいさつ」を担当したのは、企画内容の趣旨部分をまとめる作業を有志のチーム内で担当したからにすぎない。

当日はたくさんの方々に来場していただき、とくにⅡでは会場のキャパシティを越えてしまったため入場できなかった方が20名以上いらしたことに付き、うれしい“誤算”ながら、せっかくいらしていただいたのに申し訳のないことになってしまい主催者の一員としてお詫びしたい。企画Ⅰでは1980年代の指紋押捺拒否闘争の経験者・関係者が多数集まっていたので、当日はさながら「同窓会」のような友情に包まれ、あたたかい雰囲気の中で会が進行したことを、司会としてうれしく思った。Ⅱでは、映画の監督とカメラマンを努められた大津幸四郎さんの娘さん(和光大学OG)や70年代当時闘争に参加した和光大OBの方々を始め、多様な方々に参加していただいた。改めてお礼申し上げたい。

なお、各回のシンポジウムの趣旨と位置づけについては、それぞれに付せられた「企画趣旨説明」を参照されたい。また、2回のシンポジウムに関する基本データを記録のため左にまとめておく。

※Ⅰのシンポジウム実現に多大なるご助力をいただいた呉徳洙監督が2015年12月13日、永眠された。謹んでご冥福をお祈りする。

〔道場親信〕